

令和6年度佐賀市環境審議会 第2回自然・生活環境、廃棄物等検討部会 議事録

◆ 開催日時

令和6年9月5日（木） 14時00分～16時00分

◆ 開催場所

佐賀市役所 大財別館4階 4-2会議室

◆ 出席委員（敬称略）

大渡啓介（部会長）、田中宗浩、小城原直、有森明子、大石寛貴、中原正登、島崎健

◆ 欠席委員（敬称略）

藤井律子、多々良たまえ

◆ 事務局

宮崎環境部長、

環境政策課（梶山副部長、福本副課長、香田係長、石川室長、西岡主査、小柳主任、浦川主任、前田主任）

循環型社会推進課（馬場副部長、羽立参事、王丸副課長、三好係長、副島主査）

環境保全課（大家課長）、衛生センター（熊添所長、吉原副所長、塚崎係長）

施設機能向上推進室（田中室長）

◆ 傍聴者数

1名

◆ 議事要旨

1 開会・挨拶

2 議事

(1) 第3次佐賀市環境基本計画（素案）について

《事務局説明》

資料1

《意見交換等》

○部会長

ただいま事務局から説明を受けた。ご意見、ご質問があれば伺いたい。

○委員

28 ページの環境将来像に、「トンボ」のワードが入るのはよい。環境将来像の語句の説明に、「トンボは水の中に卵を産み…」とあるが、トンボは水の中だけに卵を産むのではない。本市の「トンボ王国・さが」づくりは、平成元年から約 35 年間続いており、全国的にもめずらしい取組なので、もっと PR して取組を強化するべきである。

○事務局

環境将来像の語句の説明については、記述内容を見直し修正する。

○委員

市内には全く水が流れていないと感じる。佐賀市の水はきれいだという意見もあるが、昔と比べるとそうではない。河川清掃をした際、外来種が繁茂していて清掃作業が大変であった。水を確保することが一番重要であると考えます。

○委員

水が流れていない原因は水量の減少によるものなのか。それとも土砂が堆積して底が上がったからなのか。

○委員

川上の頭首工にバイパスをつくったことにより、市内に流れる水の量が減ったように思う。また、合併の際、佐賀市には水道用水が豊富にあることから、市内に流れる水量を制限された経緯があると記憶している。

○事務局

水の流れや土砂の堆積については、担当課が不在のため回答を控えさせていただきたい。

○部会長

私は他県出身である。佐賀市のクリークは以前よりも汚れたというが、他県に比べて現在も魚やカメ等の生物が生息し、全国的にみても水はきれいだという印象を受ける。生活排水が流れるため、多少のよごれは仕方がないように思う。

○委員

素案は全体的に網羅的にまとめられておりわかりやすい。

32、33 ページの市民・事業者の取組について、4つの基本目標に従ってカテゴライズされているが、36 ページ以降のそれぞれの環境項目のどれにリンクしているのかがわかり

にくい。取組に環境項目の該当する番号等を記載すると、自分の行動が環境項目のどの部分に貢献しているかがわかりやすいのではないか。

○部会長

視覚的にわかりやすいように色分けしてみてもどうか。

○事務局

市民・事業者の取組と基本目標の環境項目を完全に一致させるのは難しいが、市民・事業者が、どの環境項目に貢献できているのか実感できるように、表記の変更を検討したい。

○委員

32 ページについて、市民だけの取組例が記載してあり、行政から強制されているような感じを受ける。市民からみて、行政と協働して取組むということが感じられないので、市民に呼びかけるような表現にしていきたい。誰が見てもわかりやすい言葉、また、地域住民にもお知らせしやすい形で示してほしい。

○事務局

市民・事業者・行政と協働して取組んでいく必要があると認識しているが、わかりやすいように市民・事業者と主体ごとに分けて取組を記載している。行政の取組については、36 ページ以降に詳しく記載している。32～33 ページは、市民・事業者の取組の一例を挙げているものであるが、市民・事業者の取組を行政の取組のページの後に移動させるなど、行政と一緒に取組むことが伝わるような見せ方を検討したい。

○委員

市民・事業者の取組を、行政の取組ページの後に移動する方がいいと思う。

また、32 ページ見出しの下に記載してある「目指す環境像の実現に向け…」について、言葉の意図がわかりにくい。環境に関心の高い人だけでなく、誰が見ても府に落ちるような文言に変更した方がいい。

○事務局

市民や事業者の方に伝わりやすい表現に変更したい。

(基本目標 3 水とみどりにあふれ、心地よさを実感できるまちについて)

○委員

成果指標について、「市民 1 人当たりの都市公園面積」は指標としてふさわしいのか。都市公園だけをターゲットにするのはどうか。

○事務局

当初は、緑被率等の幅広いみどりを表現できる指標にできないか検討していた。しかし、担当課と協議した結果、緑被率の詳細な把握は困難であるとの理由から、毎年数値が把握できる「都市公園面積」を設定している。

また、2次計画では、「市街地のみどりが増えて景観が良くなったと感じる市民の割合」を指標にしていたが、現在第3次総合計画の策定中であり、担当課も総合計画の指標を見直しているところである。第3次総合計画の策定の経過をみて、「みどり」に関する指標としてふさわしいものがあれば追加したい。

○委員

都市公園とは、都市部にある公園のことなのか。佐賀市は山から海まであり、都市部の公園に恩恵を受けない人もいるのではないかと。

○事務局

都市公園とは、都市計画法に基づき設置する公園と定義されているため、必ずしも街なかの公園だけが対象ではない。都市公園という言葉を使用する際は、注釈を入れるなどわかりやすい表現にしたい。

○委員

都市計画によって数値が決まってしまうのではないかと。緑地帯の把握について、衛星データ等を使用すると簡単に把握することができるように思う。

○事務局

検討させていただく。

○委員

成果指標の「屋外広告物許可割合」は、基本目標のテーマにふさわしいのか。また、市内の屋外広告に「浮気調査」等の内容のものが見られるが、まちの環境としてどうなのか。

○事務局

基本目標3の「みどりあふれるまち」には、環境の要素として景観も含まれており、市では、広告物もまちの景観の一部と考えている。屋外広告物の条例制定前は、市内に広告物が乱立して掲出されていたが、条例制定後は広告の高さや面積等の規制を行い、以前に比べ景観が維持されている。条例では、広告物の大きさ等の規制はできるが、内容や色合いについては規制できないのが現状である。

○委員

屋外広告物についての課題等の指標を設定した考え方の記載があれば、結びつきやすい。

(「基本目標 4 安全で快適な生活環境のまちについて)

○委員

アライグマの問題は深刻である。アライグマの罠を市から貸し出してもらい捕獲している。現在、佐賀市の罠は餌が必要なため、日頃の管理が大変である。大分市では餌が不要な罠を開発しており、アライグマの好奇心を利用した仕掛けがされている。開発者は罠の設計図を公開してもよいと言っているようだが、この情報を市は把握しているか。

○事務局

昨年、本市の職員が大分市に視察に行っており、設計図も頂いた。大分市は、大量の罠を山の麓に一斉に設置し取組が成功しているが、罠 1 台あたりの価格も高いようである。本市はアライグマの生息域がすでに南下しており、大分市の成功した事例と同じ状況ではない。大分市と同様の対策が本市で効果的であるかはわからないが、検討したい。

○委員

アライグマは、山間部で个体数が増え、街中に出てきている。市全域での罠設置は難しいと思うので、山間部でやってみてはどうか。

○事務局

検討して取組んでいきたいと思う。

○部会長

学生の力を使って取組んでもいいのではないか。

○委員

佐賀大学農学部は、毎日餌を仕掛けている。

○委員

河川清掃活動の道具が不足している。道具を揃えてほしいと各自治会からも意見がでてくる。現在、道具の貸し出し予約が重なると、思うように道具が使えないので困っている。

○事務局

今頂いた意見は、水対策市民会議でも意見があった。担当の河川砂防課が「検討する」と

回答していたので、今後の経過を見ていきたい。

○委員

基本目標4の現状に「佐賀市はクリークが多く、蚊の生息に適した環境となっています。」と記載があるが、クリークよりもタイヤの裏などの溜水にやぶ蚊が発生している。

○事務局

やぶ蚊について、市で薬剤の散布等を行っていないが、水溜り等で発生するやぶ蚊の対策（花壇の植木鉢の水受けを裏返す等の身近にできる対策）について出前講座等で啓発を行っている。また、水路についてはアカイエカの幼虫を駆除する薬剤散布を行っている。

○委員

43ページの「多自然護岸型の整備」の担当課について、生物多様性にも関わるため、環境政策課も該当するのではないか。横の繋がりが見えない。

○事務局

河川の整備をする際、生物の生息環境の確保や自然環境の多様化につながるような環境に配慮した護岸の整備を行っている。そのため、実際に河川に関わる工事を行う担当部署を記載している状況である。

○委員

計画の中に「自然共生」という言葉が見られる。「共生」とは、お互いにメリットがある関係のことであり、もっと積極的に自然を再生していくという考え方であるように思う。計画からは人と自然が「共生」しているような関係が見えてこない。「共生」という言葉を安易に使っていいのか疑問である。

46ページの「動植物の生息・生育状況の把握」に「調査を実施する」とあるが、マンパワーの問題もあり難しい。もっと地元の研究者の過去の調査記録等を有効活用すべきである。費用も掛からず、精度も高く、相当な情報量がある。研究者間だけで共有されており行政に反映されていないのはもったいない。

○部会長

学者も調査を行っているので利用していただきたい。

(2) 佐賀市一般廃棄物処理基本計画について

≪事務局説明≫

資料2

《意見交換等》

(ごみ処理基本計画について)

○委員

廃棄物関係のデータが色々な視点からまとめられており、わかりやすくよい。特にほかの自治体との比較が掲載されている点がよい。全国の市町と比較すると、佐賀市は1人当たりのごみの排出量が比較的多いが、要因の説明などはデータと合わせてしなくてよいか。

○事務局

佐賀市の特徴としてこういう傾向があるという説明はできると考える。どういう形で表現すればよいかについては検討させていただきたい。

また、事業系ごみについては、その市町村にどういった事業所があるか、どういった業種が多いかで傾向が変わってくるので、人口規模による単純比較が難しい。ただ、家庭系ごみに関しては、人口規模に若干比例する部分はあると思われる。

また、リサイクルに関しては取組内容とリンクする部分もあるので、内容を検討させていただきたい。

○委員

資料2の3-8ページに家庭系燃えるごみの組成調査結果の図があるが、食べ残しや調理くずの割合が多く驚いた。こういう情報をもっと周知すれば、市民の意識が変わり、ごみの削減につながると思う。市民に伝わりやすい表現にすることが大事である。

○事務局

食品ロス、まだ食べられるのに捨てられてしまう食品のことであるが、市民の意識やライフスタイルに直結する部分である。

今回5年ぶりにごみの組成調査を行い、ごみの重量割合の結果を図にしている。こういった図等を使い、数字でわかりやすく市の現状を広報啓発していくのも有効な手段だと思うので、今後ご意見を活かして広報していきたい。

○委員

ごみの処理にはかなり費用がかかっていると思うが、例えば、ごみを削減したらこれくらい費用を減らせるかといったことは言えるのか。

○事務局

ごみ処理経費には施設の維持管理費等も入っているため、ごみをこのくらい削減すると、処理費用がこのくらい減るというのを一概に示すのは難しいが、ごみの排出量が減り、ご

みを燃やす量が減れば、燃料の使用量等のランニングコストは当然減少する。

現在市民1人1日当たりどれぐらいの処理経費がかかっているといったようなものは示せられると思われる。小学4年生の社会科副読本「くらしとごみ」の中では、ごみ処理に関する経費について、この経費で体育館何個分つくれますといった例を出して掲載している。このように何かに例えるといったことも含めて、市民にわかりやすく広報していきたい。

(生活排水処理基本計画について)

○部会長

発生した汚泥を堆肥化しているとあるが、汚泥はすべて堆肥化され循環しているのか。

○事務局

下水浄化センターで処理する汚泥については、すべて堆肥化している。

また、三神地区の汚泥再生処理センターにおいても、すべてを堆肥化しているが、汚泥とは別に、し尿などから発生するごみは焼却処分のみ行っている。

天山地区では汚泥を焼却しており、その焼却灰を地元の農家に引き取ってもらい、農地の地質改善に活用してもらおう農地還元というものを行っている。

○委員

し尿や浄化槽での戸別収集量も年々減っていると思うが、今後都市から離れたところの事業者の事業維持の見通しについては、具体的にどういった対策が考えられるか。

○事務局

し尿の収集については、20年前と比べると2分の1以上し尿の量が減っており、途中業者の再編等も行われている。

佐賀市では、し尿収集と同時に浄化槽汚泥の収集も同一事業者でやっている。

し尿収集のみでは、し尿収集量の減少に伴い事業者は経営悪化の一方となるが、し尿から合併浄化槽処理に変わった場合には、そのまま浄化槽汚泥の収集を継続するため、これから極端な経営悪化はないと考えている。また、国のほうでも、し尿の収集悪化に対しては何らかの対策を行うよう制度がつけられているので、そういった動きと合わせた対策も考えていきたい。

○委員

ありがとうございます。

佐賀市は、収集運搬の事業者と処理施設の管理業者は別になるのか。

○事務局

佐賀市の場合、収集運搬の事業者は市内にある民間の 8 事業者である。処理施設は、市が直営でやっている。天山地区の処理施設においても、直営施設である。三神地区のみ委託業者が運営している状況である。

○委員

やはり市民の意識が高くないことには取組は進まない。

本日、市の駐車場でアイドリングしたまま駐車している車を見掛けた。まず市から環境への意識を高く持って取組んでほしい。

○部会長

なかなか全員で取組むのは難しいと思うが、それでもみなさんでやっていきましょう。

それでは、ほかに意見がないようであれば、本日の議事は終了としたい。

3 その他

なし